



No.82 2007・1・27

発行 石川県立歴史博物館

〒920-0963 金沢市出羽町3番1号

TEL.076(262)3236 FAX.076(262)1836

<http://www.pref.ishikawa.jp/muse/rekihaku/index.htm>



ISHIKAWA-KEN  
HISTORY  
MUSEUM

れきはく

## れきはくコレクション2006

- 未来に伝える石川の遺産 -



俳調一百一首之図屏風 梅田年風筆

会 期 平成19年2月10日(土)~3月21日(水・祝) 会期中無休

開館時間 午前9時~午後5時(ただし入館は午後4時30分まで)

入 館 料 一般250円(200円) 大学生200円(160円) 高校生以下無料

( )内は20名以上の団体料金

# なぜ「れきはく」コレクション2006」なのか

博物館のもっとも重要な責務として石川の地域遺産を集め、受け継いでいくことがあります。この責務をひろく社会に伝えるため当館では毎年冬に「新収藏品展」を開催してまいりました。

今回の展覧会では、博物館の責務を今まで以上に深く理解していただくために、名称を新たにしていって、なぜこの資料をあえて集める必要があったのか、その収集意義をご説明しながら寄贈・購入資料を一堂に紹介するほか、平成18年に研究用にお借りした資料もあわせて公開します。展示品の目玉は能登の時国家と双璧をなすといえる旧・白峰村山岸家の近世史料（借用品）です。

また、百聞は一見にしかず、資料管理の実態を詳しく見ていただくために、会期中、当館の心臓部といえる収蔵庫の探検ツアーなど、以下のような各種ワークショップ（入館料必要）も企画しています。

収蔵庫探検ツアー 「博物館の心臓をのぞいてみよう」  
 会期中毎週日曜日 午後2時～ 見学時間約30分 当日受付  
 博物館収蔵庫を学芸員がツアーガイドします。

カタログライブラリー 「学芸員が選ぶ 全国博物館カタログ」  
 会期中 第二棟オープンスペース  
 当館学芸員が感動した全国の博物館展示カタログを紹介し、手にとって読むことができます。

平成18年度受け入れ資料一覧（平成19年1月末現在）

資料名	点数	寄贈者
歴史資料		
軍事郵便絵葉書	10	金沢市 吉田トミ子
戦時関係絵葉書	5	上同
名所絵葉書	31	上同
梵鐘調査資料	515	白山市 湊真佐夫
『金澤』	1	愛知県 三浦英治
白山登山記念写真帳	1	金沢市 後藤 隆
出征幟旗	1	金沢市 田中 浩
鍋木家文書	17	神奈川県 鍋木紘一郎
賛美歌抄	1	金沢市 竹松てる
篠原一慶関係文書	41	金沢市 篠原一宏
出征幟旗	2	金沢市 北村 登
郵便葉書	2	上同
産婆関係書類	6	金沢市 小杉利男
トラウゼ	1	上同
新生児用秤	1	上同
宮崎豊次宛内貴甚三郎書簡	1	埼玉県 宮崎よし
宮崎豊次書	1	上同
部隊誌「聖戦」	1	金沢市 法村龍夫
東廓登楼客名簿	1	上同
博覧会記念金沢市街図	1	上同
軍人肖像（複製刷物）	2	上同
歴代宰相肖像写真集	18	上同
皇室関係印刷物	5	上同
祭礼図版（複製刷物）	5	上同
写真コレクション	62	徳島県 中内正子
金銭取扱通	1	上同
教育勅語ほか手控え	1	上同
郵便葉書	1	上同

資料名	点数	寄贈者
北越戦争軍服	1	金沢市 御園直太郎
太平洋戦争軍靴	1	上同
石川県方面委員提灯	1	上同
防空灯火電球	1	上同
産業と観光の大博覧会絵葉書	1	上同
軍人援護相談所ピラ	2	上同
民俗資料		
輪島塗朱漆膳椀揃	5	輪島市 入山良進
マンガ	1	輪島市 中本貞一
オアシ	2	能登町 田形 清
オアシ	2	穴水町 谷内定之麿
オアシ	2	珠洲市 森下久太郎
マグワ	1	輪島市 海守幸一
脱穀用キネ	1	上同
サイコツチ	1	上同
ワラジ編み	1	上同
ツルの藁飾り	1	白山市 谷野嘉次
生業関係資料	63	金沢市 竹内 治
ビデオレコーダー	8	金沢市 岡 昌弘
コリントゲーム	1	金沢市 御園直太郎
ホンカゴ他	9	上同
衣類他	231	金沢市 森田憲治
美術資料		
色絵花鳥図軸盆	1	購入
金彩色絵兼六公園図湯呑	1	購入
俳譜一百一首之図屏風	1	購入
天保九如図幅	1	購入
計	1075	

## 韓国の「人間国宝」を訪ねて ～全州研修回想録～

昨年9月1日から同30日までの一ヶ月間、韓国国立全州博物館へ研修に行きました。同館との姉妹館交流の一環であり、交流15周年を記念した特別展「韓国文化への誘い」の資料輸送を兼ねた出張でした。全州は全羅北道の道庁所在地であり、食の都として有名です。私にとって初めての韓国でしたが、各地を見学し、出品する資料の検査と梱包に追われている間に、一ヶ月が過ぎてしまいました。特別展では博物館資料の他に、韓国の伝統工芸品が出品されましたが、今回は私が出会った「韓国の人間国宝」について紹介します。



全羅北道は、石川県と同様伝統工芸が盛んな土地であり、「無形文化財保有者」が、国指定・道指定を含めて68名います。全州国立博物館学芸研究

士・姜京男カンキョングンムさんの案内で、その中お一人の工房を訪ねることができました。

全羅北道扶安郡フアンは、全州から車で約1時間南にあります。山林が豊富で、海に面した扶安は風光明媚な土地であり、まるで奥能登のようなのかな印象です。その扶安郡の南端に位置する柳川里は、11世紀から14世紀にかけては高麗青磁の一大産地であり、名品が現代に伝わっています。ここで窯を営むのが陶匠・李殷奎イソンクイさんです。

田畑に囲まれた工房には大きな土製ののぼり窯があり、薪が積まれています。現在では大多数の陶工が、温度調節が容易で失敗が出来にくいガス窯を使用している中、李さんは土製の窯と薪で制作をしているそうです。傍には作業場と展示場を兼ねた建物があり、青磁を制作する現場を見ることができました。

優れた象嵌青磁（土台の表面を削り、白土などを入れて焼成し模様にする）を作る李さんですが、自然釉薬を使って出している色に特徴があるそうです。「ほら、同じ色でしょっ」と見せてくれたのは、13世紀頃の高麗青磁の破片と、自分の作品の色合いでした。中国で「翡色」と呼ばれた高麗青磁独特の

色を出すことは非常に難しく、化学釉薬やガス窯ではまず不可能で、この色を作れるのは現在では李さんただ一人ということでした。

その後、工房近くにある高麗時代の窯址に案内していただきました。史跡に指定されているため窯址自体は建物で覆われていましたが、周囲にはまだ青磁の破片や焼成する際の台などが落ちており、一大生産地だった当時の名残を感じることが出来ます。周りを見渡せば青々とした山が連なっており、扶安の豊かな自然に支えられて優れた青磁は生まれた、自分がここで制作を続けるのは、この自然があるからだ、という李さんの言葉が、深く印象に残りました。



突然の訪問にも関わらず、暖かく迎えてくださった李さんには本当に感謝しています。また、今回の出張を通してたくさんの方のお世話になりました。交流事業、と言うと堅苦しいですが、一つ一つの出会いの積み重ねが大切なのだと感じています。

（学芸員 大井理恵）





## 平成十八年度の展覧会を振り返って

平成十八年度開催の展覧会は、特別展三回のほか、企画展やミニ企画展など八回を数えました。その内、今年度は開館二十周年の節目にあたり、三回の特別展には「開館二十周年記念」の冠称を付けました。また貸館制度導入による展覧会も一回の開催をみました。

のどかな春つららの季節に春季特別展「開館二十周年記念、加賀百万石への道 ―戦国から太平へ―」（四月二十二日～五月二十八日）を開催しました。

加賀具足や加州刀と呼ばれる甲冑や刀剣類、それに加賀拵など、工芸王国石川の礎となった武装の美と技を紹介し、併せて現代の人間国宝を中心とした作家の作品も加え、八十四件を、特別第一・二展示室を使用し公開しました。

今回、初公開の加賀藩四代藩主前田光高や五代藩主前田綱紀が元服のとき着用した具足、水戸藩主徳川頼房が孫の綱紀に贈った鎧飾りなど、話題を呼びました。

会期中、列品解説二回、テーマに因むゼミナール一回を実施しました。

家族連れで賑わう時期に夏季特別展「開館二十周年記念、伊勢神宮の神宝」（七月二十九日～九月十八日）を開催しました。

伊勢神宮では、二十年ごとに式年遷宮が行われて

きました。その遷宮の度に同じ形の社殿が新築され、また神に供される御装束神宝が、当代一流の職人たちの手により、古式のまま新しく調進されます。

本展は、平成二十五年、伊勢神宮の第六十二回式年遷宮に向けて企画された展覧会で、役目を終え撤下された御装束神宝など、八十三件を、特別第一・二展示室、第四展示室を使用し公開しました。

北陸地方では初公開の展覧会であり、多くの人たちで賑わいました。また朱鷺の羽根を柄に装飾した豪華な「須賀利御太刀」など、圧巻でした。

会期中、記念講演会二回、列品解説二回を実施しました。

「芸術の秋」「文化の秋」といわれる季節に秋季特別展「開館二十周年・韓国国立全州博物館姉妹館提携十五周年記念、韓国文化への誘い 全羅北道の歴史と文化」（十月十四日～十一月二十六日）を開催しました。

全羅北道地域の旧石器時代から、現代の伝統工芸品まで、二百三十六点を、特別第一・二展示室、第四展示室を使用し公開しました。

統一新羅時代の益山王宮里五層石塔出土の国宝「金銅舍利盒・舍利瓶」は、魅力的でした。

会期中、記念講演会一回、列品解説二回、テーマに因むゼミナール一回を実施しました。

春と夏の特別展の間の時期に企画展「モダンの調べ 鞍信一蓄音機コレクション」（六月十日～七月九日）を開催しました。

明治や大正・昭和、各時代に使われた各種の蓄音機やオルゴール、紙腔琴など、四十台を、特別第一

展示室を使用し公開しました。

会期中、毎日午前十時と午後三時にSPレコードの試聴会を行いました。

秋の特別展が終わり、年末にかけてミニ企画展「昭和物語 モノでたどる戦後」（十一月二十九日～十二月二十六日）を開催しました。

昭和二十年の敗戦から高度成長を経て、昭和天皇崩御までの四十余年の歩みを、本やおもちや、家電製品など、時代を象徴する資料でたどり、約二百七十件を、第四展示室を使用し公開しました。

「書物の修復 本をなおす、本をのこす」（十二月十六日～二十四日）は、貸館制度導入により開催された展覧会で、特別第一展示室を使用し公開しました。

新年を迎え、その第一弾として企画展「新春を祝う 明けてびっくり正月展」（一月四日～二月四日）を開催しました。

正月の縁起物の数々と、正月習俗、正月飾りの再現など、特別第一展示室を使用し公開しました。

会期中、「天神堂を組み立てよう」「ペンダイを作ろう」「羽子板で遊ぼう」「むかしの書初めをしてみよう」「なつかしの福茶を飲もう」（一月四日～七日）などのワークショップを実施し好評でした。

企画展「れきはくコレクション2006 未来に伝える石川の遺産」（二月十日～三月二十一日）は、従来の新収蔵品展のタイトルを見直したもので、寄贈や購入などにより、本館が系統的に収集してきた資料、および借用の資料を、特別第一・二展示室を使用し公開の予定です。（副館長 北 春千代）

## れきはくメイト 韓国ツアー添乗報告

平成18年11月18日(土)～22日(水)の4泊5日で、石川県立歴史博物館開館20周年・韓国国立全州博物館姉妹館提携15周年記念の特別企画として、「韓国の歴史文化と食への誘い5日間」と銘打った研修ツアーが実施されました。

参加者は総勢24名、20歳代から80歳代までご夫婦、親子、友人などさまざまな参加者が集い、楽しくて有意義な5日間でした。参加者の動機を聞くと、「韓国には何回行ったが、歴史博物館が主催するツアーだからきつと面白い」、「通常のツアーでは見ることの出来ない場所が魅力」、「美味しいものがたくさん食べられそう」といったことが参加のきっかけになったようです。今回のツアーは、第一に韓国百済の歴史を日韓双方の学芸員による解説を聞きながら研修できる、第二に韓国食文化の故郷と呼ばれる全州を訪ね「全州ピビンバ」に代表される多彩な食文化を体験すること、第三に(株)テレビ金沢と全州放送局との姉妹提携を核に市民の相互訪問による日韓友好親善を図ることがあげられます。

22日午後小松空港特別待合室に全員が集合し、結団式が行われ歴史博物館の挨拶のあと今回の企画に

共同企画したテレビ金沢の寺田事業部長から今回の企画の意義、また北國観光(株)添乗員から行程の説明を受け、定刻15時55分大韓航空776便で出発しました。17時45分仁川国際空港着、その夜はソウル市内の焼肉店で極上カルビを堪能してホテルへ。19日(日)8時にバスに乗り込み一路百済の2番目の都が置かれた公州博物館へ向かいました。公州博物館で全州博物館の崔興鮮学芸員の出迎えを受け、崔先生の説明で、百済第24代武寧王陵出土遺物を見学しました。昼には百済3番目の都が置かれた扶餘へ。日本の古代寺院とも関係する定林寺跡と資料館、さらに百済金銅大香炉が見られる国立扶餘博物館を見学し、4時ごろに全州博物館へ到着。日曜日の休日にもかかわらず、全州博物館の職員の暖かい歓迎を受け、崔先生や李京珠先生の解説を聞きながら館内見学、夜は全州博物館主催の歓迎夕食会が、韓国の伝統的な民家を改造したレストランで開かれ、全州ならではの豪華な韓式定食をご馳走になり、全州博物館の先生方と楽しい懇談の場となりました。20日(月)はナムルクツパという全州独特の朝食をとり、韓国弥勒信仰の中心地「金山寺」を見学、全山紅葉の中、崔先生の解説を聞きながら、韓国仏教の歴史を勉強しました。次いで百済を代表する弥勒寺跡と資料館を見学し、現在修復中の韓国最大の石塔の現場も特別に見学でき、参加者も「さすが博物館の企画だけあって、特別拝観も出来てよかった」との感想もいただきました。午後からは全州市内に戻って、伝統的建物群が残る韓屋村地区、朝鮮李王朝

初代李成桂のご真影を祀る慶基殿、全州城の南門にあたる豊南門などを見学、夕食は全州名物「ピビンバ」に舌鼓を打ちながら、古都全州の夜を楽しく過ごしました。また全州放送の金宅坤社長とも会談し、来年には全州から金沢へ代表団を送り交流を深めることで合意することも出来ました。21日(火)はソウルへ引き返し、午後からたっぷり新装成った国立中央博物館の見学です。ここでも、石川県博で研修した金在弘・李在烈・金圭東・鄭聖喜先生などが出迎え、先生たちの説明の後各自自由に館内を見学し、韓国の歴史と文化の真髄を堪能しました。22日(水)は土産物店によりショッピング、午後1時仁川空港から小松へ、午後2時30分無事到着し解散となりました。

参加者の感想を聞くと、「専門家の解説があつて分かりやすかった」、「韓国と日本の歴史が不可分の関係にあることがよく分かり、韓国に親しみを感じるようになった」、「今度は別のルートでは非韓国の歴史と文化を体験したい。」など大好評をいただきました。歴史博物館としても、今後とも全州博物館との交流を通して、こうした市民レベルの交流に尽力したいと思っています。今回は主に朝鮮半島西側、百済文化を訪ねる旅でしたが、韓国にはまだまだ多くの歴史遺産や伝統文化を色濃く残している地域があります。次回の企画に向けて新たな計画を練っていますのでご期待願います。

最後になりましたが、今回の企画の口火を切っていただき、同行記者までも派遣して強力な後押しを



韓国国立全州博物館にて

いただいたテレビ金沢、並びに旅行中の数々の手配をしていただいた北國観光、そして現地での説明に全面的な協力をいただいた全州博物館内勲室長など関係者一同に厚くお礼申し上げます。

(普及課長 高橋 裕)

## れきはく催し物案内 (予告)

### れきはくゼミナール 予定

毎月第三土曜日に開催

学芸員が、日ごろ研究しているさまざまなテーマをお話します。

時間 いずれも午後二時から三時三十分まで

会場 当館学習ホール

受講料 無料 どなたでも聴講できます。

二月十七日(土) 講師 大井理恵

テーマ「文化財保存の今昔」

三月十七日(土) 講師 戸潤幹夫

テーマ「甦る七尾城下町」

### 常設スポット解説

毎月第一月曜日に開催

学芸員による常設展示のワンポイント解説です。

時間 午後二時から二時三十分まで

会場 当館常設展示室

スポット解説のみ場合は無料です。ただし、他の展示室をご覧の方は入館料が必要です。

二月五日(月) 講師 大門 哲  
テーマ「石川の和船」

### 休館日のお知らせ

二月八日(木)・九日(金)・三月二十二日(木)・二十三日(金)は展示替のため休館日となります。

三月五日(月) 講師 本谷文雄  
テーマ「占領下の日本とキューピー人形」

### 次回、特別展のお知らせ

「昭和ワンダーランド モノでたどる戦後」  
平成十九年四月二十一日(土)～五月二十七日(日)  
敗戦から立ち直り、高度成長を経て奇跡的な復興を遂げ、安定成長を経て、昭和天皇が崩御するまでの約40余年を、時代を象徴するモノで振り返ります。この展覧会を通して、昭和にタイム・スリップしてください。

### 編集後記

今年はず昨年と一転、雪なし正月で新年を迎えました。暮れから正月三が日は、まるで太平洋側の冬を思わせるほどの好天となり、稀にみる年末年始でした。今年度は開館二十周年記念、韓国国立全州博物館姉妹館提携十五周年記念と、周年事業で多くの方々に来館いただきました。来年度も皆様に喜んでいただける展覧会や各種行事を予定しています。ぜひともご来館ください。